

No.2925

第4回世界社会科学フォーラム (World Social Science Forum 2018)

九州大学 副学長

宮本 一夫

平成30年9月25日(火)から28日(金)にかけて第4回世界社会科学フォーラム(略称:WSSF)が皇太子同妃両殿下のご臨席のもと、アジア太平洋地域で初めて、福岡国際会議場で開催された。本フォーラムは人文社会科学系では最大の国際会議である。アジア・オセアニアをはじめ80近い国々から研究者や政策担当者・ジャーナリストら約1,000名が集まり、世界の喫緊の課題である「持続可能な未来のための安全と平等」の表題の下、9つのテーマ(「人間の安全保障」、「グローバル化、文化の多様性と包摂」等)を取り上げ、その達成に向け、研究分野の垣根を超えた議論を行った。今回の参加者のうち、インドネシア、インド、ネパール、中国等アジアの研究機関に属する若手研究者15名は、りそなアジア・オセアニア財団の支援の支援によって、本フォーラムへの参加が可能となった。財団の御厚意にあらためて感謝の意を表すものである。

本フォーラム初日(25日)に行われた開会式では皇太子殿下よりお言葉を賜り、政府を代表して松山政司内閣府特命担当大臣(当時)、地方自治体を代表して小川洋福岡県知事、高島宗一郎福岡市長よりご挨拶頂いた。続いて主催者を代表して、ダヤ・レディ国際学術会議(ISC)会長、山極壽一日本学術会議会長、宮本大会委員長、久保総長、エリサ・ライスISC副会長が歓迎の辞を述べた。

学術面では、パーサ・ダスグプタ氏(英ケンブリッジ大学経済学部フランク・ラムゼイ名誉教授)をはじめとした、世界的に著名な人文科学者、社会科学者を講演者、発表者に迎え、100に及ぶ大小さまざまなセッションを開催された。27日には親睦会(バンケット)を催し鏡開きや、本学邦楽部による雅楽演奏が行われ、世界からの参加者に日本文化を体験してもらった。多くの参加者から本大会について大変満足いくものだったとの感想が寄せられた。

本フォーラムの成功により、会議母体の国際学術会議(略称:ISC)の設立趣旨にふさわしく、社会科学のみならず自然科学を含めた研究者による学際的な議論が可能なプラットフォームの形成に一步近づいたといえる。また、本会議を通してアジア諸国の研究者および学術機関との連携の拡大の礎を築くことができたといえる。